

ファミリー・ポートフォリオとしての“ツクルミュージアム”の評価

Assessment of the Smartphone Application “Tukuru Museum” as an Element of a Family Portfolio

佐藤 朝美	今野 知	荒木 淳子	佐藤 慎一
Tomomi SATO	Satoru KONNO	Junko ARAKI	Shinichi SATO
愛知淑徳大学	株式会社 Switch・	産業能率大学	日本福祉大学
Aichi Syukutoku	エンタテインメント	SANNO University	Nihon Fukushi
University	Switch entertainment Inc.		University

〈あらまし〉 筆者らは、親の発達に重要な「親としての気づき」と「親子の相互作用」を促す省察的な家族対話を引き出すファミリー・ポートフォリオ構築を構想している。本研究では、子どもの写真や映像、日記等、成長記録を取りためるといった日常の行為の中で、子どもの作品を記録することの意味に着目しスマートフォンアプリ“ツクルミュージアム”を検証する。子どもの作品から見とれることや作品の変化から、親としての気づきや視点の変容がどのように促されるのか評価する。

〈キーワード〉 親子対話、家族、生涯発達、e ポートフォリオ

1. はじめに

子育てや家庭教育を取り巻く環境が変動する中、家庭の教育力の低下が課題に挙げられ、子育てに関する親の学び促進、親の交流・地域参画促進、親と学校との信頼の構築、地域資材の活用力向上等、様々な取り組みが行われている（文部科学省「家庭の教育力の向上」）。親が成長するには、「子どもと向き合う」ことが必要であり、親自身が省察的に考え、実践していくための「リフレクションを促す家族対話」が重要であるという（Thomas 1996）。子どもの成長記録として写真や動画を日常的に撮りためるほか、画像共有サイトやソーシャルネットワークワーキングサービス（以下 SNS）等の各種ソーシャルメディアに記録し、家族だけでなく親戚や知人と共有する人が増え、日々雑感をブログや SNS に書いているケースも多く見られる。そのような現状を踏まえ、筆者らは親としての学びや成長を促すことを念頭に、省察的な家族対話を引き出すファミリー・ポートフォリオ構築を構想している（佐藤ら 2013）。

2. 本研究の目的

本研究ではファミリー・ポートフォリオの要素として、子どもの作品を記録することに着目する。絵画や作品をポートフォリオ化することの効果については、ハワード・ガードナーらの知見をもとに池内（1999）がまとめている。教育現場でポートフォリオ評価法を用いることで、学習の

過程や、個人の進歩、成長をみることができ、教師自身納得でき、保護者にも提示することで評価の内容解説などできる側面からも有用な評価方法であるという。ハーバード大学プロジェクトゼロの「アーツ・プロベール」は、芸術教育で実施されているポートフォリオについて、造形美術教育に適していることを実証している。さらに池内（1999）は、初等教育における図画工作の、立体造形物のファイル化も含めたデジタル・ポートフォリオ評価方式の計画案を提示している。デザイナーやアーティストのポートフォリオと異なり、教育現場のポートフォリオは、オリジナルスケッチ、下絵、自己反省なども入れることにより、その子の状況がつかめることが効果を高めることになる。しかし、多くの情報を残すためには、手間と場所がかかる。そこで三次元の立体作品のような物も含め、画像ファイル化するデジタル・ポートフォリオを提案している。

以上から、制作物の記録は子どもの進歩や成長を知る上で重要であり、それらは教育現場にとどまらず、養育者である親にも同様と考える。特に未就学児においては、絵画のみならず、立体物を多々家庭において作成するため、容易に記録できるツールが必要である。本研究では、上記要件を満たすスマートフォンアプリが親の成長に寄与するのか、さらにはどのような点が有効なのか評価することを目的とする。

表1: “ツクルミュージアム” の画面一覧

1) トップページ	2) 作品登録画面	3) 作品リスト	4) 個人の作品リスト
			
スマートフォンで動作。スマートフォンのデジタルカメラ機能を使用する。	スマートフォンのカメラ機能で撮りためた写真を選択、もしくは写真撮影をする。1作品につき写真7枚登録でき、メイン画像も選択できる。	ツクルミュージアムに参加する家族メンバーを登録すると、家族メンバーごとに作品が一覧として表示される。	作品リストから1つ選択すると、各自が制作したものがミュージアムとしてメモと一緒に表示される。

3. アプリの機能

“ツクルミュージアム”は、日常気軽に写真を撮りためることができるスマートフォンアプリである(SATO et al. 2014)。作品の写真は複数枚登録可能であり、立体作品等は上下左右など撮影する。これらの撮影した写真は、ミュージアムとして簡単にまとめることができる。まず、作者を登録し、作者毎に作品を記録する。1作品には、作品名とコメント、さらに複数の写真が掲載できるようになっている。場合によっては、完成後の写真だけでなく、制作途中のプロセスや完成後の子どもの表情等も登録することもできる。登録した作品リストは、家族メンバーごとに表示したり、時系列で過去を振り返ったりすることができる(表1)

4. アプリの評価

未就学園児のいる親5組に実際に“ツクルミュージアム”を1ヶ月間使用してもらい、使用後インタビューを実施する。インタビュー項目は、アプリを使用することで、親自身にどのような変化が生じたのか、それは何がきっかけだったのかを特定できる内容とした(表2)。

表2: インタビュー項目

【テクニカルな面、感情面】
1. 利用の感想
【作品を見る視点】
2. 作品を撮りながら、お子さんの作品づくりについて気づいたことはありますか

【親子の対話】

3. 作品を通じて、お子さんとの対話はありましたか

【夫婦の対話】

4. 作品を通じて、ご夫婦での対話はありましたか

【気持ちの変化】

5. ツクルミュージアムを利用する前と比べて、ご自身のお子さんへの気持ちに変化はありましたか。

6. ツクルミュージアムを利用を通じて、ご自身の親としての気持ちに変化はありましたか。

7. ツクルミュージアムを利用を通じて、パートナーへの気持ちに変化はありましたか。

8. (働いている人の場合) ツクルミュージアムを利用を通じて、ご自身の仕事やキャリアに対する気持ちに変化はありましたか。

【使用の動機】

9. 今後もツクルミュージアムを使ってみたいと思われませんか。

謝辞

本研究は、平成26年度科学研究費補助基盤研究(C)(課題番号:25350923, 代表:佐藤朝美)の助成を受けている。

参考文献

- Thomas, R.(1996)Reflective dialogue parent education design: Focus on parent development. Family Relations 45.2,pp189-200
- 佐藤朝美, 荒木淳子, 今野知, 佐藤慎一 (2013) 親の発達を促す省察的な家族対話を支援するファミリー・ポートフォリオに関する研究. 日本教育工学会第29回大会講演論文集, P2a-1-301-10
- SATO,T.,KONO,S.SARAKI,J,SATO,S.(2014) Development of the Smartphone Application “Children’s Own Museum” as an Element of a Family Portfolio. Proceedings of ED-MEDIA 2014. pp.1007 -1011.